

私立 広島工業大学

取組名称 技術系学生の社会人基礎力育成のためのキャリアデザイン

取組担当者 学長 茂里 一紘

1. 本学の概要

広島工業大学は、1961(昭和36)年4月1日設置の広島工業短期大学を前身とし、1963(昭和38)年4月1日に工学部電子工学科、電気工学科の1学部2学科で開学した。現在は、工学部6学科、情報学部3学科、環境学部3学科の3学部12学科と大学院で構成し、学部生4,078名(男:3,832名 女:246名)に対して160名の専任教員と115名の非常勤講師で教育を行っている。なお、専任の職員は85名、その他の職員は48名である。(2009(平成21)年5月1日現在)。

本学は、「教育は愛なり」を建学の精神とし「学生一人ひとりの可能性を信じること」を基本姿勢として、教職員一丸となって教育に取り組んでいる。また、教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」を「時や場所にかかわらず常に“Something Great”を意識し、自然を畏敬し、自分の中の倫理を持ち続けること」であると理解し、これまで以上に教養教育に力を注ぎ、育成人材像を「技術者に関する基礎知識とそれを応用する力と同時に、社会と環境を重視する認識と環境保全や社会奉仕のために行動する力及び高い技術者倫理とそれを実践する力を備えた技術系人材」として学生の育成に当たっている。

このように本学は、「基礎と応用、そして社会・環境・倫理」に軸足を置き教育を実践している技術系大学である。

図1に本学の概要を示す。

工学部：男子2,056名・女子43名	情報学部：男子1,058名・女子75名
電子・光システム工学科	情報工学科
電子情報工学科	知的情報システム学科
電気デジタルシステム工学科	健康情報学科
機械システム工学科	
知能機械工学科	在籍者数 4,078名
都市建設工学科	
建築工学科	
環境学部：男子718名・女子128名	女子学生(内数) 246名
環境デザイン学科	
地域環境学科	
地球環境学科	

(2009(平成21)年5月1日現在)

図1 広島工業大学の概要

2. 本取組の概要

本学は「確かな就職」を指針として、「内定率の向上」「内定企業の質の確保」「早期離職率の低減」を3本の柱とし、就職支援を実践しているが、昨今の社会情勢の変化に対応してそれら支援の一層の充実が求められている。

本取組は、図2に示す各項目を実践することにより、学生が在学中に社会で求められている能力を自覚し、学士課程での学びにも意欲的となり、学士力や社会人基礎力を向上させ、より一層社会に貢献できる人材となることを目指すものである。

以下に実施項目の概要を示す。

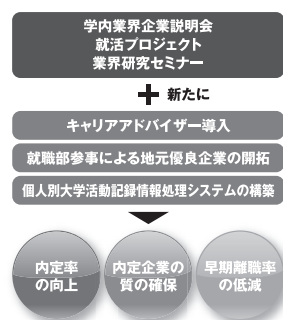


図2 本取組の概要

(1)「就活プロジェクト(就活支援及び卒業生との情報交換)」と「業界研究セミナー」及び「学内業界企業説明会」の一層の充実

(i) 就活プロジェクト(就活支援及び卒業生との情報交換会)

就職活動支援として行うもので、出身地域への就活支援としての「Uターン就職支援バス」、東京での企業セミナー参加支援として1泊2日の「東京就活フライト」、大阪での企業セミナー参加支援として日帰りの「大阪就活新幹線」等がある。「Uターン就職支援バス」と「東京就活フライト」は、その地域で活躍している本学OBとの情報交換会も行う。

(ii) 業界研究セミナー

学生が広く業界の情報を収集し、自分の目指す業界

・企業を見いだすキッカケの場として、本学に業界を代表する企業に集まっていただき、説明を受けるものである。

(iii) 学内業界企業説明会

本学で実施する会社説明会は、本学学生と、本学学生の採用を目指す企業の採用担当者が一堂に会して、直接対話する説明会である。

(2) キャリアアドバイザーの導入

多様化している学生の社会人基礎力の育成と職員の指導レベル向上を目的として導入する。

(3) 就職部参事の導入

広島県を中心とした地元の優良企業の新たな発掘及び、企業へのきめ細かなフォローアップを目的として導入する。

(4) 学生活動記録システムの構築

学生の目標管理のために構築するもので、自己管理することによる自分自身の確認や生活管理に繋がることを目的とする。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

2008(平成20)年秋のサブプライムローン問題に端を発した世界的不況の嵐は、まさに日本も直撃し、急激な就職氷河期に見まわられている状況にある。

一方、教育や企業を取り巻く環境も大きく変化している。

教育環境で言えば、家庭や地域社会の教育力の低下と大学進学率の上昇が同時進行しており、大学進学率は2004(平成16)年にほぼ50%に達し、2007(平成19)年には大学全入時代を迎えている。

職場環境を見ると、ITの発達に代表されるビジネス環境の変化は、ほとんどの企業から希望する人材像として示される、①コミュニケーション能力、②課題発見力、③明るい性格と積極性、④責任感等のように、人間関係に関する能力、課題発見の能力、自己管理する能力を求めている。

このような状況の中で、本取組は、指針である「確かな就職」をより確実にするために行うものであるが、これはとりもなおさず、基礎学力(一般常識や基本ITスキル等)に基づいた社会人基礎力(コミュニケーション、実行力、積極性、責任感等)を高めるものであり、したがって、社会から求められている人材

の育成となるものである。

これらを達成するための目標として、以下の項目を掲げている。

- ・就職内定率の向上
- ・正社員率の向上
- ・専門職率(専攻分野に関連する企業への就職率)の向上
- ・地元優良企業の新規開拓

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 本取組の具体的内容

各取組の具体的内容は以下のとおりである。

(i) 就活プロジェクト

○Uターン就職支援バス

主として各地域出身の学生への支援として、当該地域での情報交換会を日帰りで行うものである。

交換会はその地域の行政の方及びその地域で活躍中の本学OBに出席いただき、実際の行政の取組や地域の就職状況、OB在籍企業の内容や仕事への取組等、有益な多くの情報を提供いただいている。

2009(平成21)年10月に実施しており、参加者は、岡山が8名、松山が30名、松江が23名であった。



写真1 Uターン就職支援バス

○東京就活フライト・大阪就活新幹線

東京や大阪で就活を行う学生への支援として行うもので、経済負担の軽減や大手企業へのチャレンジ意欲の喚起、活動範囲の拡大等を狙いとしている。

東京は飛行機を利用した1泊2日の日程で2カ所の企業セミナー参加、大阪は新幹線を利用した日帰り



写真2 東京就活フライト

で、1カ所の企業セミナー参加である。

いずれも2009(平成21)年11月に実施しており、東京は2グループで計98名、大阪は97名の参加であった。

(ii) 業界研究セミナー

就職活動のスタートとして、本学が選んだ各業界の代表企業に来学いただき、各教室に分かれ本学学生が説明を受ける。学生が広く業界の情報を収集し、自分の目指す業界・企業を見いだすキッカケの場を提供する。

2009(平成21)年10月に2回実施しており参加人数は748名(延べ)であった。

(iii) キャリア講演会

企業の経営トップの方を招き、経営者の観点から、社会経済の仕組み、会社の取組、新卒者に期待すること等を講演していただくことにより、職業意識の向上や社会人になることへの自覚を促すことを狙いとしている。

2009(平成21)年12月に実施しており参加人数は307名であった。



写真3 キャリア講演会

(iv) 就職進学懇談会

この会は、本学教員・学生・保護者の3者による進路の相談・懇談会である。学生が卒業時に満足できる進路を得ることが出来るよう、教員からは取り巻く環境の説明や学生の修学状況等の説明を行い、3者でしっかり相談することとしている。

(v) 学内業界企業説明会

毎年2月に具体的な業界・企業選びの場として本学で開催する最も大きな企業説明会である。本学への求人企業300社以上の人事担当者に来学いただき、3日間に亘ってブース形式の説明会を行う。

(vi) キャリアアドバイザーの導入

大きな経済不況の中での就職活動を乗り切るため、多様化した学生への有効な就職支援(マナー講座、模擬面接の実施、個別相談、各種ガイダンス等)や教職員への指導(情報交換会やアドバイス等)を目的として導入するものである。

具体的には、2009(平成21)年6月から活動中であ



写真4 キャリアアドバイザー

り、学部3、4年生や院1、2年生を中心に、個別相談、自己分析講座、エントリーシート対策ガイダンス、ビジネスマナー講座等を実施している。

(vii) 就職部参事の導入

企業開拓及び企業へのフォローアップを目的として導入するものである。

広島県を中心としたエリアでの優良企業の開拓や、近年卒業生が入社していない企業の掘り起こしを行い、厳しい求人状況の中での就職先の確保を狙いとする。

(viii) 学生活動記録システムの構築

学生自身が目標を定め、確実にステップアップするため、個人別の学生活動記録システムを構築する。就職に関する活動を自分自身で確認することが可能となり、不足部分の早期発見に繋がる。また、自分の活動を管理することによって、時間管理や規則正しい生活管理にも有効となる。

(2) 本取組の実施体制

本取組の実施体制を、図3に示す。

社会人基礎力育成プロジェクトセンターは、教員17名、キャリアアドバイザー1名及び就職部参事1名により組織し、就職部職員11名が連携・協力して取り組むこととしている。

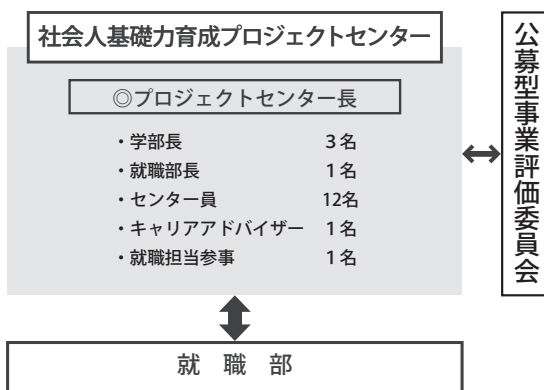


図3 実施体制

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

本取組は、毎年、図4に示した流れによりPDCAを繰り返し、実施を行う。

具体的に「公募型事業評価委員会」は、半期に1度の進捗状況の評価を行うと共に、年度末においては、年間の評価も行う。

これにより、是正すべき点や一層強化すべき事項、あるいは、取りやめるべき事柄などの取捨選択を行い、それらを「社会人基礎力育成プロジェクトセンター」で検討し、次年度の計画に役立てる。

なお、様々な行事で学生へのアンケートを実施しており、当然、それらアンケート結果により実施内容の手直しを行い、評価結果とともに次年度に引き継ぐ。

(2) 取組の評価方法

具体的な評価は、達成目標の指標で行う。それらは次のとおりである。

- ・ 就職内定率 96%
- ・ 正社員率 100%
- ・ 専門職率 92%
- ・ 中四国地域（広島県中心）優良企業の開拓及びフォローアップ 200社

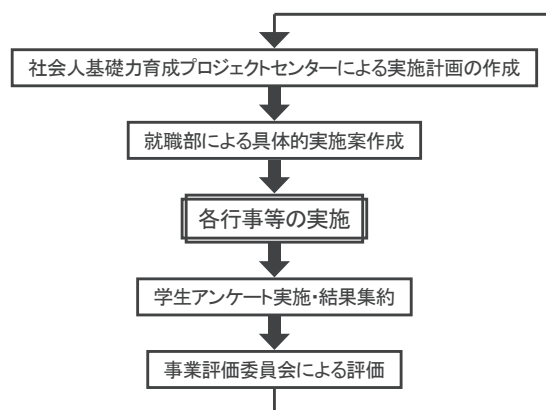


図4 評価体制

6. 本取組の実実施計画等

本取組の実実施計画を図5に示す。

基本的には、学生が通過集団であることから、同様な行事を毎年計画し実施することとなる。

もちろん、先の評価体制で述べたように、学生アンケートや評価委員会による評価によって、実施内容に必要な修正等を行い実施することとなる。

実施項目	年度		
	2009(H21)年度	2010(H22)年度	2011(H23)年度
Uターン就職支援バス(10月)	●	●	●
業界研究セミナー(10月)	●	●	●
就活支援(東京、大阪)(11月)	●	●	●
キャリア講演会(12月)	●	●	●
就職進学懇談会(12月)	●	●	●
学内業界企業説明会(2月)	●	●	●
キャリアアドバイザー相談等	●		
就職部参事企業開拓等	●		
学生活動記録システムの開発	●	●	●
	開発	テスト稼働	本格稼働

図5 実施計画